

哲学の道デザイン 検討会議



01. 検討会議の目的



景観と安全の共存「哲学の道」整備事業において、景観面、安全面の配慮が必要となる哲学の道の路面に関して、周辺景観と調和した設計を進めるため、専門的見地及び地域的視点から意見や助言を求め、京都ならではの良質な道路空間を創出していくことを目的とする。

生活の道としての安心・安全の確保
哲学の道らしい良質な空間の創出

02. これまでの検討内容

- 道路の沿道利用形態、交通規制、これまでの管理状況を踏まえ、長期的に安全かつ持続的に維持管理できる道のあり方を検討する。
- 住民が大切にしてきた哲学の道らしさ（景観、環境、歴史）を、自然の道のイメージを残したまま、今後も継承していくための方策を検討する。

これまでの4回の検討会議では、**4つの配慮項目**をもとに検討を重ね、

生活環境

道路の安心・安全
(維持管理面)

景観

環境

- ・ 沿道の利用状況や交通規制を踏まえた**ゾーニング**を行い、
- ・ それぞれ区間の課題に応じて丁寧に変化をつけながら、**全体の基調を整えていく**という方向性を整理し、さらに哲学の道にふさわしい路面デザインの検討を深めてきた。

- 第1回 令和6年10月 7日
- 現場視察 12月17日
- 第2回 令和7年 6月10日
- 第3回 9月26日
- 第4回 12月19日
- 第5回 令和8年 3月25日



02. これまでの検討内容

会議での意見【4つの配慮項目】

生活環境

- ・ 土の道部分では水たまりができたり、小石の飛散、車いすの方には危険である。
- ・ 砂利道は雨が降った後は凸凹する等、生活道路として問題がある。
- ・ 沿道にお住いの方々への砂埃等の影響を考慮し、車が通行できる箇所から優先して、段階的に整備を進めるのが良いのではないか。
- ・ 温度上昇するからといって舗装をしなかったら、生活している方々は苦しいままである。
- ・ 舗装（路盤）の上に土を重ねる方法は、水たまりや土埃等の問題が解決されるか気になる。



→ 沿道の土地利用状況を踏まえた検討が必要

02. これまでの検討内容

会議での意見【4つの配慮項目】

道路の安心・安全（維持管理面）

- 大きな石、水たまり、地面隆起がない、歩きやすい道にしたい。
- 経済性にも配慮しながら持続的に舗装を機能させ、道路管理者が負う管理責任の部分もしっかり踏まえて議論することが重要と思う。
- 舗装化を前提とせず、当面は地道のまま、窪みを埋めること、埃がたたないような管理をしてほしい。
- 交通量が多くても継ぎはぎが少なくきれいな状態が保たれるような舗装（石畳風）が良いのではないか。
- 竹を繊維にした天然の素材を混ぜるような、新しい方法でより強度を高めつつ、環境に配慮し生活環境にも優しい舗装を検討していく必要がある。



→ 交通規制や維持管理面（路面の耐久性）を踏まえた検討が必要

02. これまでの検討内容

会議での意見【4つの配慮項目】

景観

- ・ 地域の方が慣れ親しんだ風景を保ちたい。
- ・ 公園で使われる自然な風合いの舗装と車道で必要となる自然石を固定した舗装、両者の良い部分を環境条件に合わせて融合させる。
- ・ 哲学の道の歴史を踏まえ、土の風合いを生かしつつ、維持管理もしやすい整備が必要。
- ・ 全体の色調をYR系（地道色）で低彩度、低明度で統一し、哲学の道らしい景観を維持する。
- ・ 道には連続性といった繋がりのほか、スポット的な考え方もあり総合的な検討が必要。
- ・ 舗装がつぎはぎで、統一感がない。



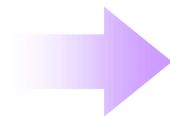
景観地区・地域、維持管理面（路面の補修）を踏まえた検討が必要
全体の連続性への配慮が必要

02. これまでの検討内容

会議での意見【4つの配慮項目】

環 境

- ・ 遊歩道と道路の間に縁石があるので大丈夫と思うが、舗装するとサクラに影響が出ないか心配。
- ・ 美しいサクラ並木を守ってほしい。
- ・ 舗装工事によるサクラの根へのダメージが大きいのではないか。
- ・ 舗装部分との路面温度の比較調査の結果、土の道は表面温度が低い、ということがわかった。
- ・ 土の道にはサクラの根に対するダメージの少なさ、蓄熱しない、水を吸収するなどの優位性がある。
- ・ 水はけの良い舗装や温度上昇を抑制する舗装の検討。
- ・ 保水性舗装にすることで、現状よりも環境に配慮した舗装になるのでは。

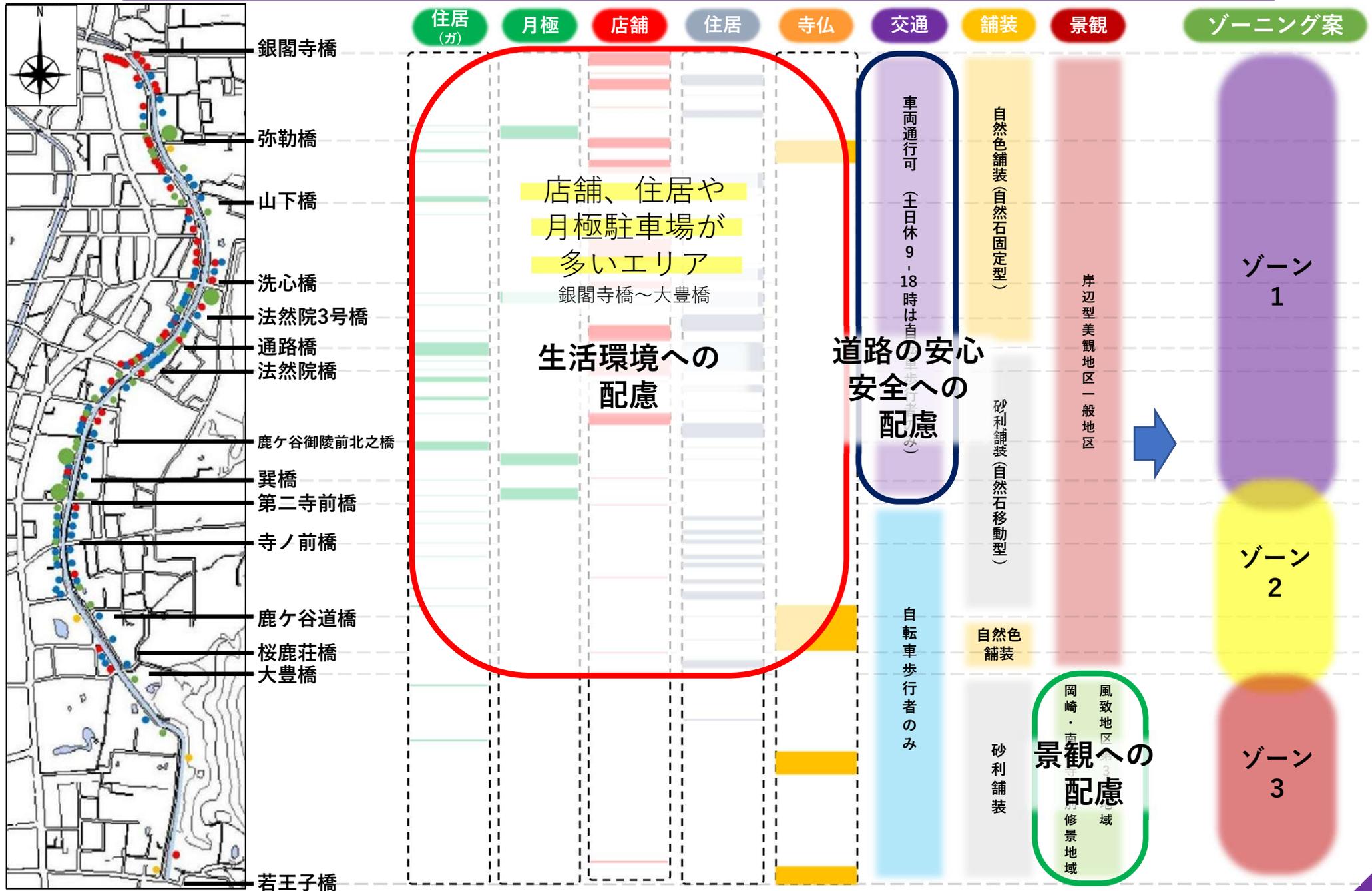


専門家への意見聴取（サクラ、ホタル、チョウ）

路面の温度上昇への対応

02. これまでの検討内容

【ゾーニングの提案】



02. これまでの検討内容

専門家のアドバイス

サクラ



- ・ 遊歩道のある区間のサクラは道路側への根の侵入がなく、舗装化による影響はほとんどないと推測される。
- ・ 遊歩道がない区間の狭い植栽帯では根が道路側に侵入していると推測されるため、工事における掘削や転圧により、サクラの根を傷つける可能性が考えられる。
→ 樹木医による判定を実施し、根への対応を相談した方が良い。

樹木医のアドバイス

- ・ 砂利道は非常に硬かったため根が発達しづらい環境であり、深さ30cm程度については、サクラの体を支持したり生育に強く影響するほどの太い根は、あまり伸びていないことが推察される。
- ・ 掘削作業の際は、根を傷つけることなく施工する。
- ・ 根をやむなく切断する場合、サクラへの影響を少なくする方法として、切断面に殺菌癒合促進剤及び発根促進剤を塗布することが考えられる。
- ・ 根を切断した際に枝も部分的に減らすことで、水の吸収量と蒸散量を調節し、樹木全体のバランスを整える方法もある。
- ・ サクラの根にとって良い環境は、通水・通気性が一定確保されていること。



02. これまでの検討内容

専門家のアドバイス

ホタル



- ・ 舗装自体はゲンジボタルの生息地に直接影響しない。
- ・ 地下への雨水浸透が減少し遊歩道内の草木に若干影響が出る場合がある。
- ・ 工事による騒音、ほこり、遊歩道内の樹木への影響、作業照明の配慮が必要。
- ・ **工事時期は4月～7月を避け**、幼虫が水中で過ごす冬に行うのが望ましい。
- ・ LED市街灯は**暖色系**が望ましい。

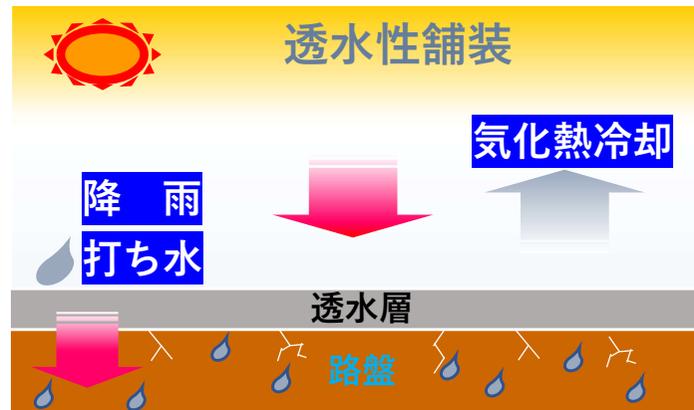
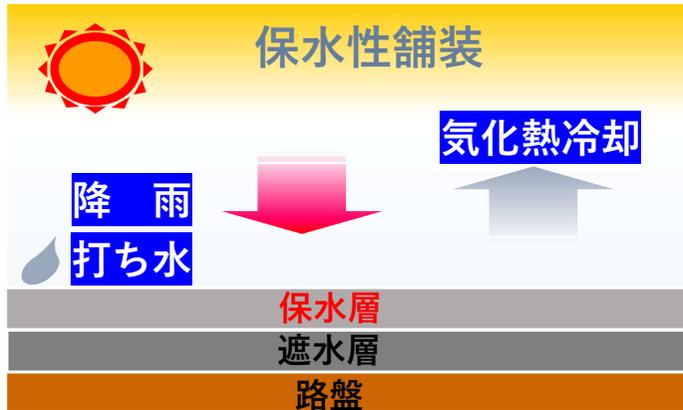
キマダラルリツバメ

- ・ 舗装による環境の変化で、共生関係にあるハリブトシリアゲアリが営巣場所を移動し、キマダラルリツバメ（チョウ）の生育に影響を与える可能性がある。
- ・ 舗装する場合は、段階的に影響があるかないか様子を見ながら、**環境を一挙に変えない**ように配慮することが重要。
- ・ 工事前にモニタリング調査（生息調査）を実施し、アリの生息地を確認する。
- ・ 工事は、チョウの成虫が発生する**6～7月を避け**、冬場に行う方が影響は少ない。



02. これまでの検討内容

路面の温度上昇への対応

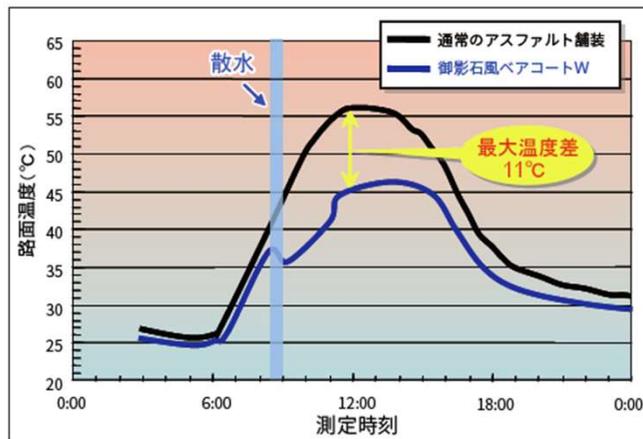


保水層が水を蓄え蒸発することで路面の温度上昇を抑制する
 ※路盤には浸透しないため、
 車道での適用が可能

路盤が水を蓄え蒸発することで路面の温度上昇を抑制する
 ※路盤が軟弱になるため、
 車道での適用は不可

雨水はアスファルト舗装を
 伝って地表を流れる

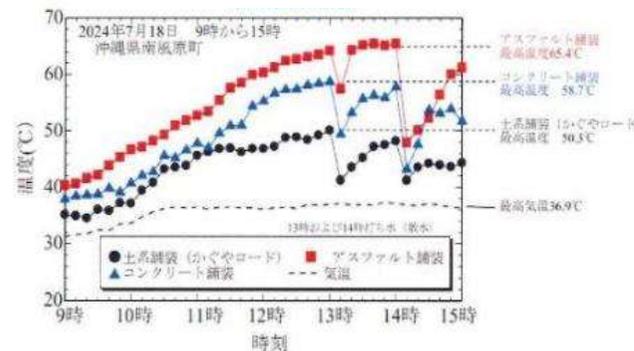
(保水性舗装 (石畳風舗装) の例)



散水による道路の表面温度の変化

御影石風ベアコート W と通常のアスファルト舗装の比較
 - 平成 24 年 8 月 8 日 12:00 時点での外気温 37°C -

(透水性舗装 (土系舗装) の例)



項目	気温 (°C)	温度 (°C)		温度差 (°C)
		アスファルト舗装	土系舗装 (かぐやロード)	
測定値	36.9	65.4	50.3	15.1

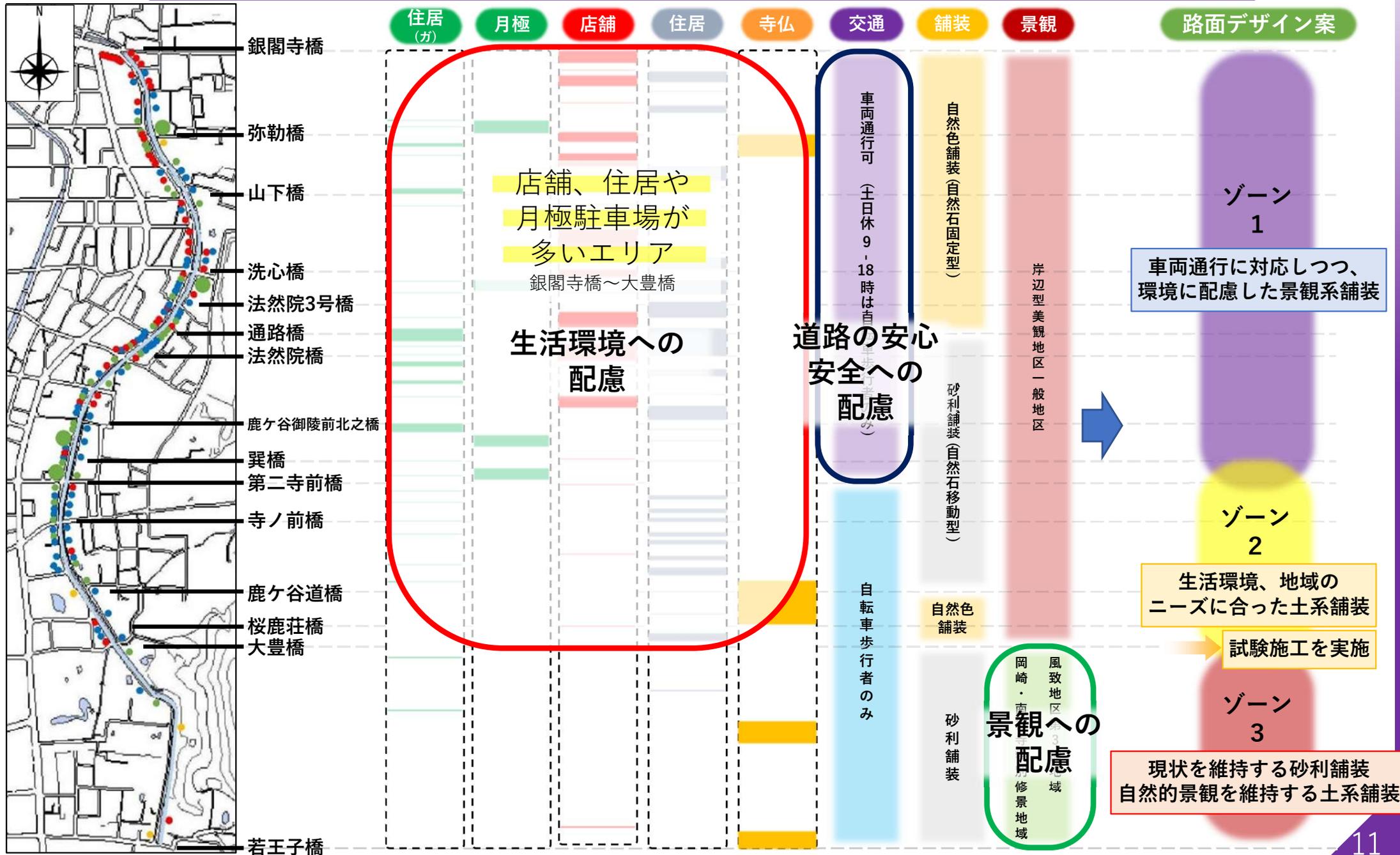
アスファルト舗装と比較して路面温度差 -15.1°C
 コンクリート舗装と比較して路面温度差 - 8.5°C
 上記結果からヒートアイランド現象緩和に期待ができる。

水分の蒸発
 (気化熱)
 による路面温度
 の上昇抑制

(参考)

- 日本乾溜工業株式会社
「かぐやロード」カタログより
- 前田道路株式会社
「御影風ベアコートW」カタログより

03. ゾーンごとの路面デザイン（案）：第4回会議での提案



03. ゾーンごとの路面デザイン（案）

会議での意見【ゾーン①】



■ ゾーン①に関する御意見

- ・ 保水性舗装にすることにより、現状よりも環境に配慮したようなよりよい舗装になっていく。
- ・ ゾーン1は現状舗装の状態が悪いが、石畳風舗装で補修されれば、より耐久性の高いものになると思う。
- ・ ゾーン1の舗装済区間は、統一性がなくつぎはぎだらけなので、未舗装部分も含め一貫性のある整備が必要ではないか。
- ・ 固めてしまうのではなく、丁寧な維持管理を継続することにより、現状の砂利舗装をそのまま残すことができると思う。また、車両通行を制限すれば埃はだいぶ改善できると思う。

03. ゾーンごとの路面デザイン (案)

会議での意見【ゾーン②】

■ ゾーン②に関する御意見

- ・ ゾーン2は生活道路の安全面を考えると、砂利道として維持することは難しいと思うので、最低限の舗装は必要ではないか。
- ・ 土の道での試験施工をしてほしい。路盤をしっかり作り、水はけやサクラの根に配慮し、表面は埃の立ちにくい川砂を使ってほしい。
- ・ ゾーン2でヒートアイランド現象を心配する意見もあったが、疏水の石垣から並木部分まで哲学の道の半分以上は土として残されるため、そこまで温度上昇を懸念する必要はないのではと感じた。
- ・ 砂は溝に流れることもあるため、そういった砂の改良を検討するのが、この会議の意義である。今の技術で土に近い舗装をしてもらえれば、埃は無くなると思う。
- ・ ゾーン2の提案（環境性能、メンテナンス性も高める土系舗装）はチャレンジだと思う。だからこそ、哲学の道の意義があると思う。



03. ゾーンごとの路面デザイン（案）

会議での意見【ゾーン③】



■ ゾーン③に関する御意見

- ・ ゾーン1、2に比べカチカチに舗装する優先度は低いと感じている。現状維持、あるいは自然な風合いを残した土系舗装に賛成である。
- ・ これまでの経験から、自然に近い砂利では緊密（しっかり締め固める）にしているとしても痩せていく。
- ・ ゾーン3も砂利が側溝に入っている。舗装をしてもらえると掃除が簡単になると思う。
- ・ ゾーン2、3については自転車についても規制するなど、地域の人たちの協力のもと様々なことを進めていくのが良いのではないかと。
- ・ ゾーン3で車いすを押してみたが、全く問題なく押せることがわかった。福祉目的でも、土の道は排除されるものではないことをお知らせしたい。

04. 意見のとりまとめ方針

- 道路の沿道利用形態、交通規制、これまでの管理状況を踏まえ、長期的に安全かつ持続的に維持管理できる道のあり方を検討する。
- 住民が大切にしてきた哲学の道らしさ（景観、環境、歴史）を、自然の道のイメージを残したまま、今後も継承していくための方策を検討する。

➡ 新しい地道を考える上で重要となる視点

全体の基調を
整える

安心安全な
道路機能の
確保

景観、環境
歴史の継承

04. 意見のとりまとめ方針

全体の基調を
整える

哲学の道らしい地道のイメージで、
色彩（地道色・YR系、低明度、低彩度）、
テクスチャー（質感）、スケール感（粒径）等を全区間で揃え、
統一感を持たせる。

地道色（YR系）

無彩色（N系）



交差点についてもデザインを統一し、哲学の道の連続性を確保

路面だけでなく、排水施設（側溝）等の付帯施設についても
デザインを統一し、道の連続性を確保



イメージ



現状



イメージ図

04. 意見のとりまとめ方針

[道路行政の簡単解説：国土交通省道路局] をもとに編集

安心安全な
道路機能の
確保



イメージ

道路の役割

人・地域をつなぐ

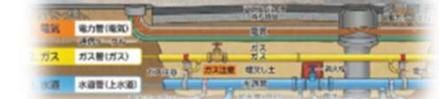
交通アクセスの機能

- ・ 沿道施設、住宅への利便性
- ・ 生活物資などのモノの輸送

地域・まちを創る

まちの安全性、防災性の向上

- ・ 緊急車両の円滑な活動
 - ・ 災害時の避難路、避難場所の確保
- 日々の暮らしや経済活動を支える
- ・ ライフラインの収容



長期的に安全かつ持続的に維持管理が
可能な道（耐久性）を確保する



04. 意見のとりまとめ方針

景観、環境
歴史の継承

景観

歴史

哲学の道の「土」のイメージを継承する新しい地道で、色彩（地道色・Y R系、低明度、低彩度）、自然素材による質感、スケール感等を全区間で統一感を持たせる。



景観

環境

路面の温度上昇を抑制し、かつ土の風合いを持つ新しい技術（保水性の景観舗装、透水性の土系舗装）にチャレンジし、現状よりも景観・環境性能を向上させる。

環境

サクラ等の環境に配慮し、工事方法などを検討する。



イメージ

05. ゾーンごとの路面デザイン（基本方針）

ゾーン①



■ 路面デザインの基本方針

- ・ 車両通行に対応した耐久性を確保
- ・ 凸凹、砂埃が発生しにくい路面の整備
（沿道住民、歩行者・自転車の安心安全）
- ・ 強く固めることで長期的に維持管理が可能
（固定型工法）
- ・ 景観は哲学の道らしい地道のイメージで整える
- ・ 路面の温度上昇を抑制



車両通行に対応しつつ、環境に配慮した景観系舗装

防塵・平坦性

保水性

段階的に工事

- 周辺景観との調和や路面温度上昇などに配慮した「地道風保水性舗装」を基本案とする。
- 他のゾーンと色彩等を揃え、統一感と連続性を持たせる。

05. ゾーンごとの路面デザイン（基本方針）

ゾーン②



■ 路面デザインの基本方針

- ・ 自転車（一部車両通行）に対応した耐久性を確保
- ・ 凸凹、砂埃が発生しにくい路面の整備
（沿道住民、歩行者・自転車の安心安全）
- ・ 固めることで長期的に維持管理が可能（固定型工法）
- ・ 景観は哲学の道らしい地道のイメージで整える
- ・ 路面の温度上昇を抑制
- ・ 土の風合い、テクスチャーを活かしつつ、
環境への配慮と維持管理面との両立を目指した新技術の舗装



生活環境、地域のニーズに合った土系舗装

防塵・平坦性

保水性・透水性

段階的に工事

- 土の風合いを継承する「柔らかい固め方」を、
複数案の試験施工を通じて検討し、道路管理者として
責任を持って維持管理できる仕様を判断する。

05. ゾーンごとの路面デザイン（基本方針）

ゾーン③



■ 路面デザインの基本方針

- ・ 歩行者、自転車に対応した耐久性を確保
- ・ 凸凹、砂利の流出が発生しにくい路面の整備
- ・ 沿道に住居や店舗が少ないことから当面は現状の砂利舗装（移動型工法）の維持も可能
- ・ 将来的に固定型工法（土系舗装）の導入も検討



現状を維持する砂利舗装
自然的景観を維持する土系舗装

防塵・平坦性

保水性・透水性

段階的に工事

- 現在の景観を尊重し、現状維持を基本方針としつつ、ゾーン2での試験施工の検証結果を踏まえ、将来的な整備方針を整理していく。

05. ゾーンごとの路面デザイン (基本方針)

